



新年のご挨拶

長崎県技術士会会長 犬東 洋志

— 平成20年の新しい年を迎えて —

2008年末広がり年と位置づけてみましょう。気分が違うはずですが、昨年度会長に押し込まれもう年も年だからとお断りしたかったのが本音ですが、世間的にもまだ動けそうなのでお引き受けしました。その際組織を少し変更していただきました。考えたのは、九州支部での発言力の増、支部活動の活性化でした。

さて、今年目標の第一は、昨年から追っかけています「我々の先輩がどのような業績を残しているのか」を続けて行きたいと思えます。

これは、東京大学名誉教授・高橋裕さんが「民衆のために生きた土木技術者たち」とのテーマでDVDの上映と講演を日本各地で行っていることを長崎大学の高橋和雄教授のところで知り、機会を待ちましたが19年5月8日広島大学で参加する機会を得ました。

その中に登場する先輩の方々ですが、広井勇、青山士、八田興一、そして宮本武之輔の4名です。これらの方々に関しては、(財)河川環境管理財団客員研究員・高橋哲郎さんが著書を著されておられまじ、土木学会誌でも概略を拝見できます。そして先輩方が携わった現場を拝見したいと思っているのですが未だ実現していません。

詳しく話し出しますと紙面が足らなくなりますがこのくらいにしますが、何時の日か皆さんと現場に立って見て考え、意見交換をしてみたいと画策しています。

第二には、今年を何かMemorial Yearに出来ないかと考えています。それは、後世に何を伝え何を残せるかの長崎県版を目指したいのです。良いIdeaを求めてゆきます。

私たち技術士の経験をそのまま消えさせることは忍びないのです。ITの時代だからこそ形あるものとして残す必要があるのではないのでしょうか。皆さんのご意見を聞きながら絞り込んでゆきたいと考えています。出来上がったものへの批判より最初からの参加を期待します。そのために宗教哲学者・内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」(岩波文庫)を読まなくてはならないのです。Internet上では入手不可なのですが古書を探すつもりです。こうして探すことにワクワクしませんか。

昨今、産学官の連携とは言いながら私たちの活動もComplianceの壁が出てきて困ることが多いのですが、行政との連携は欠かすことの出来ないことと認識しています。そのためにも企業の肩書きをはずし技術士として活動することが必要でありそのため

⑥ 民衆のために生きた土木技術者たち」DVD上映と講演会に参加しました。これは国交省の主催で全国各地で行われています。(広島大学)

以上ですが、これらの経験を加味して色々なことを考え、Managementとして活動して行きたいと思っています。会員諸氏のご協力をお願いします。

最近のISO状況とエコアクション2.1について 長崎県技術士会 高山能博(機械部門)

私は現在ISOの審査会社(株)日本認定機構(JACO)に勤務しています。ISO活動と技術士活動とは無縁の様に考えられますが、私の審査会社にも数名の技術士が在職し、専門性・経験を活かして活躍しています。

1. JACOは環境保全に貴重な経験と実績を持つ大手電機・電子メーカー10社と、日本電気工業会、日本電子機械工業会が設立した、我が国初の環境認証機構です。

現在ISO総合審査登録機関として環境、品質・情報セキュリティ・労働安全衛生・食品安全マネジメントシステムに関する国際基準に基づいた企業の監査・認証を実施しています。

更に国連から、日本の審査機関として初めて温室効果ガス(GHG)の排出量算定・検証事業の認定も受けています。

また海外の組織への審査に対応、各国審査登録機関との提携によるジョイント審査を行い、世界で通用する審査機関でもあります。

先日食品では、国内で初めて英国のUKASから認証機関として認定されました。

2. 日本国内では、既に環境ISOがほぼ19000社、品質ISOが43000社認証取得されています。然しながら、現在取得済みの事業者も下記2極化が進んでいる様に見受けられます。

- 1) ISOを経営に役立つ仕組みとして、事業計画と一体化して、品質・環境の継続的改善を図り、売上拡大、品質向上、歩留改善、活性化、経費削減等に繋げていく積極的なケース。
- 2) ISO取得後の継続的な改善が進まず、認証取得のステータス維持でとどまっているケースです。

従いまして私達は、審査、セミナーを通じて、組織の社会的責任を含む総合的かつ付加価値のある、経営に役立つ審査を心がけております。

に技術士会が存在すると確信しています。種々の会合に行政の参加が少ないどころか無と言われることを何とか脱却する活動をしてみたいと思っています。

今年も会員各位と何かを残す一年にしたいと申し上げご挨拶とします。

－ 平成19年の活動を振り返って －

会長を引き受けて何が出来るか何をすべきかを考え、可能な範囲で自分の Territory を越えて活動してきました。

唯いえることは何かの発見はあったし、世界が広がった感がしてじっとしていられなく思うようになり「いそがしい」と言っています。Inter Net の時代とはいえ動かなければ真の情報は得られないと感じています。

今回は項目だけにしてありますが、何らかの記録として残したいと思っていますので役員の皆様のご意見もお聞きし、総会を経て処理します。

① 日・独橋梁 Symposium の Post Tour が長崎を中心に行われ、資料作成及び案内役を引き受けた次第でした。ちなみに、Symposium は大阪市立大学にて実施されました。

University of the German Armed Forces , Professor Dr.-Ing.Geralt Siebert と親しくなることができ、2009年に Germany で開催の Symposium に是非来て欲しいと懇願され困っている次第です。

視察は西海橋、大島大橋、女神大橋、中島川の石橋群、宿泊は伊王島でした。

② 橋の再生 Colloquium Symposium 実行委員会委員を仰せつかり、後援に長崎県技術士会が名を連ねました。次回は再来年、東京開催です。

③ UJNR・天然資源の開発利用に関する日米会議の耐風耐震構造専門部会の日米橋梁 Work Shop 開催に伴う現場視察に第二西海橋と女神大橋が取り上げられました。情報が遅かったので直接関与は出来ませんでした。長崎県技術士会の HP に掲載することを Suggestion 頂いています。

④ 土木学会西部支部総会にて、土木学会名誉会員としての紹介を頂きました。(福岡市)

⑤ 土木学会総会にて、土木学会名誉会員として推挙され推挙状を頂き、紹介を頂きました。少し華やいだ雰囲気でした。(東京都)

平成19年度環境 Counselor 研修会(環境省主催)に参加しました。地球温暖化に対して何をすべきかと問われ、「一人一人が化石燃料使用量を減らす Simulate を行うべきである」と発言したらそのまま総括報告に採用され、啞然としました。(熊本市)

そして折角取得された ISO を、是非経営改善に繋げて頂ければと考えています。

3. エコアクション21の普及と支援の拡大

エコアクション21は、この2年間くらいで急速に普及が進んでおり、現在全国でほぼ2000社近くが登録されています。

平成19年6月に「21世紀環境立国戦略」が閣議決定しました。この中の8本の柱の一つに、エコアクション21を普及していく事が盛り込まれています。この為、エコアクション21や環境 ISO の取得を支援する次の様な取組みも全国で開始されています。

「自治体のクリーン入札、補助金制度」、「金融機関より関連融資」、「自治体の工事入札加点等」、「自治体の産業廃棄物処理業者の優良性評価制度」等です。詳細は、環境省関連の I G E S - C f S の HP 「<http://www.ea21.jp>」を参照ください。私も2年前にエコアクション21審査人に何とか合格することができました。今後エコアクション21も急速に普及することが予測されます。皆様方も是非取得されては如何でしょうか? ご質問等がございましたら、宜しく願いいたします。

機関紙発行担当者より

平成19年度(2回目) 研修会報告

長崎県技術士会では、12月7日に島原市で会員13名の参加により、研修会を開催しました。今回は島原の歴史について見識を深めるため、当地の歴史研究第一人者の松尾卓次氏に「島原の歴史」をテーマに、特に島原大変や平成の噴火等の過去の大災害に対していかに人々が向合い、復興してきたか、貴重な古文書等も紹介も含めて講演をしていただきました。また小出剛氏(元日本技術士会理事)には「技術士法制定50周年記念シンポジウム報告」を主なテーマに技術士会の現状と展望・課題等について、音声を交えて臨場感のあるお話を伺うことが出来ました。

その後、懇親会、さらに会場の九十九ホテルに宿泊された方も多く、一層の情報交換、親交を深めることが出来ました。

ご協力ありがとうございました。

追記

新年明けましておめでとうございます。

本年も年4回以上の機関紙発行を目指したいと思えます。原稿依頼等につきまして、会員各位のご協力を宜しくお願い致します。

大栄開発株式会社 桐原 敏

〒857-1151

佐世保市日宇町2690

TEL 0956-31-9358

FAX 0956-32-2711

